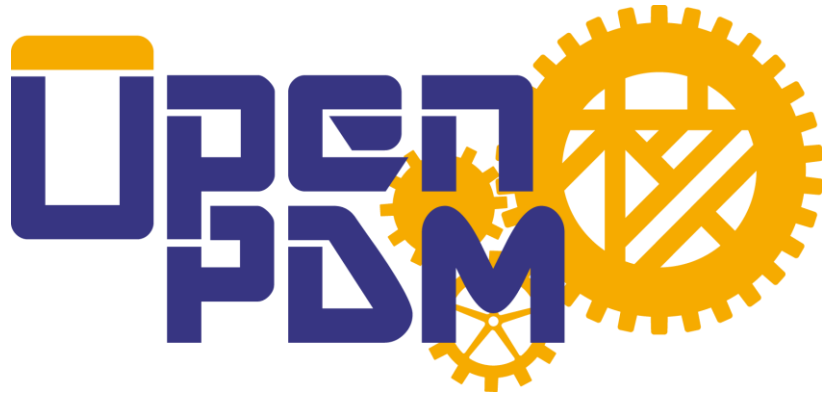


製造業向けPLM/PDMソリューション



OpenPDM核は20年以上のパッケージ提供により培った
業務ノウハウを凝縮したパッケージです。
汎用的で、直感的で使いやすく、コストパフォーマンスに
優れた製品となっています。

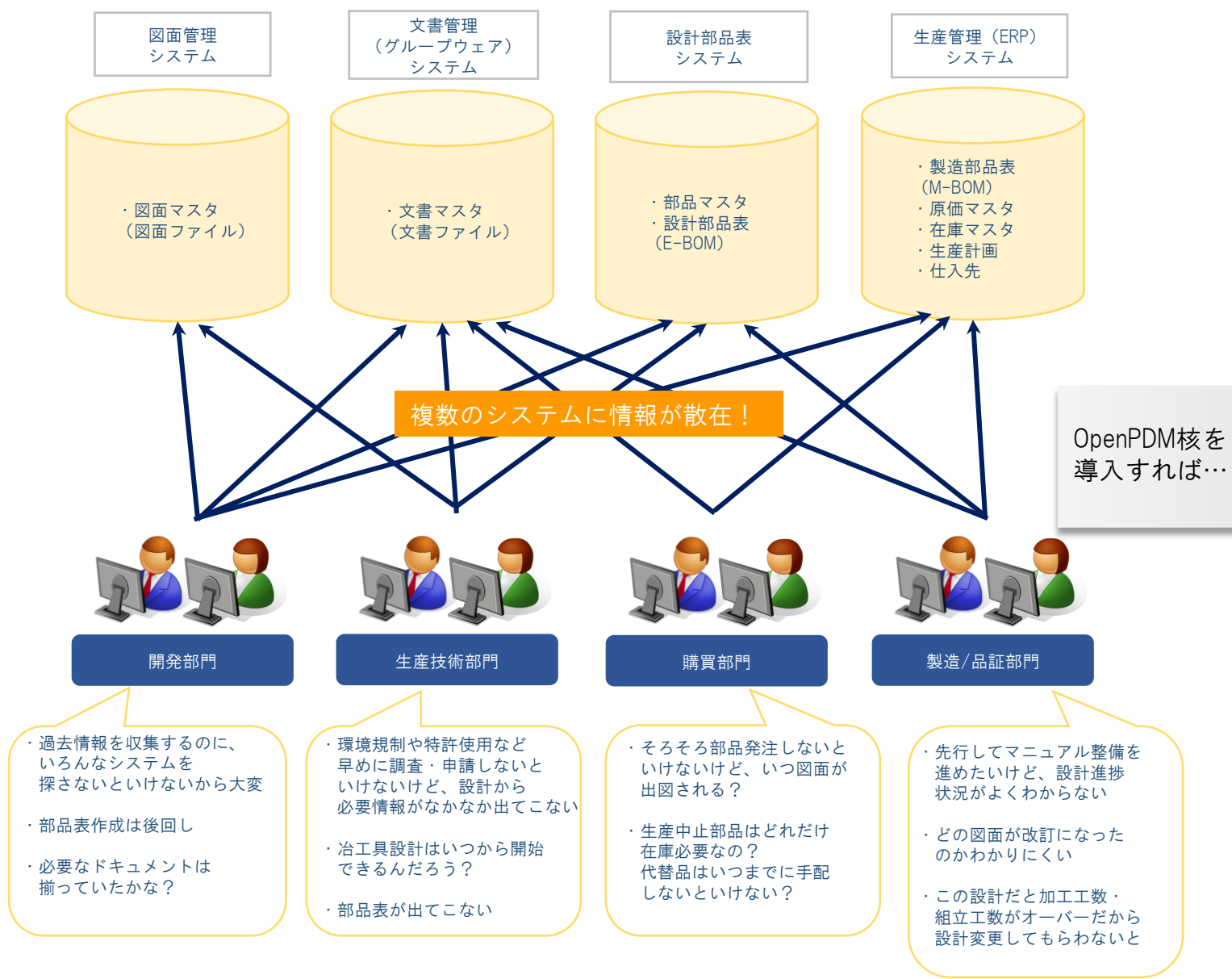
OpenPDM核は
あなたの**業務**に**フィット**します。



製造業様でのよくある課題

●現在の状況（PDM導入前）

- ・ 部門毎に部門最適システムを導入したがために、複数のシステムが乱立
- ・ 情報を横断的に閲覧できないので、全体進捗がわかりにくい
- ・ 全ての部門が全てのシステムにアクセスできない



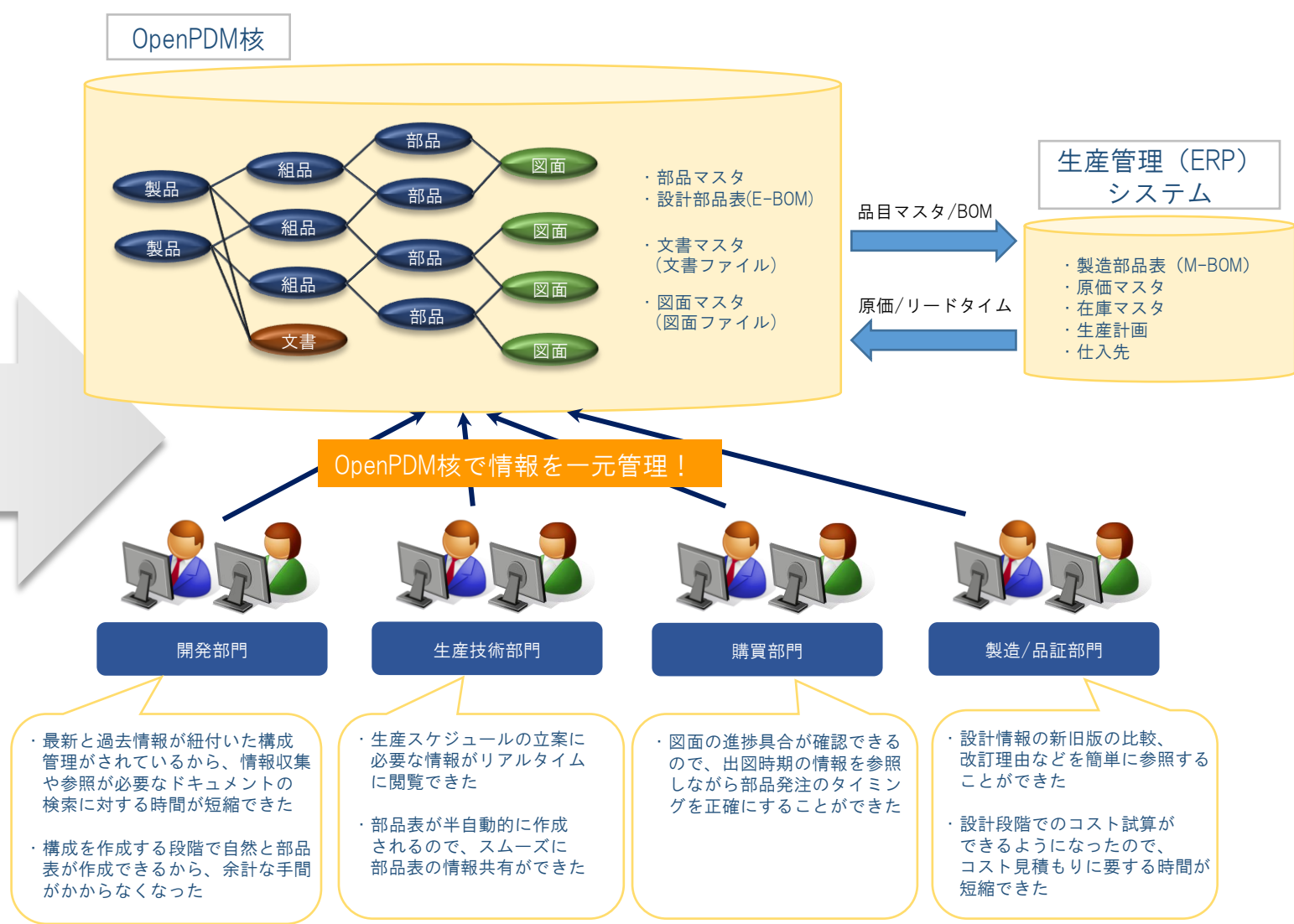
●課題

- ・ 後戻り設計変更が多く、タイムリーに想定コスト内で製品リリースができない
- ・ 部門間情報共有のための会議も多くなり不必要なコスト増になっている
- ・ システム間情報連携機能を複数作成しているため、どれか1つのシステム更新にも、かなりのコストがかかる

製造業様でのよくある課題への解決

●PDM導入後

- ・ 部門毎に使用していたシステムを1つのシステムに統合することにより、データ投入、データ関連付け、承認などの運用フローがシンプルになる
- ・ 1つのシステムで管理することで、各部門で必要な情報を横断的に閲覧することができる
- ・ 製品構成、部品、図面、文書などの情報をリアルタイムに共有できる



●解決

- ・ 後戻り設計が減少し、製品リリースまでのリードタイムを短縮できる
- ・ 情報共有する際に必要な部品構成や図面、仕様書などをリアルタイムに共有でき、不必要な確認作業を減らすとともに、遠隔地でのレビューも簡単に行える
- ・ システムが統合化されることにより、連携機能作成/バージョンアップなどのシステム開発/運用保守コストが削減される

解決のための実現例

設計途中の情報共有による進捗共有

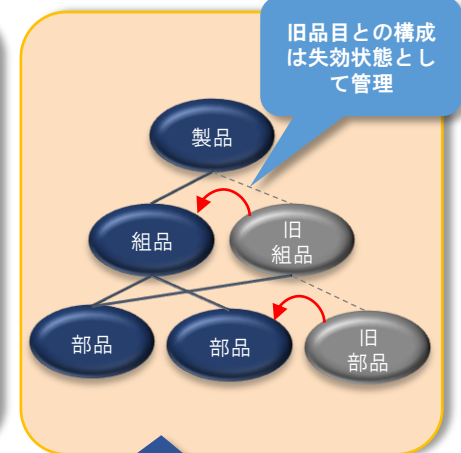
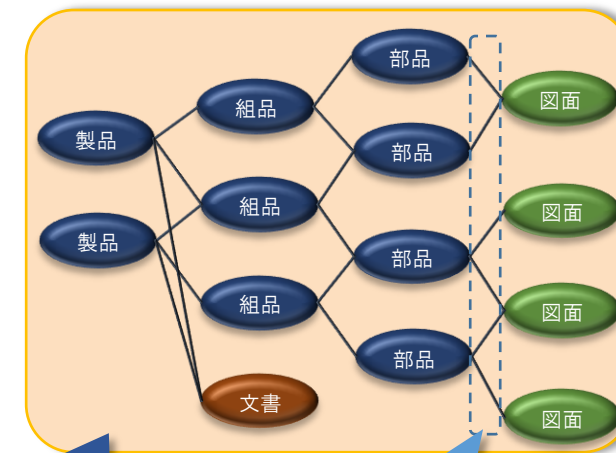
- ・設計の初期段階からデータを登録することで、レビューや出図する前段階から設計情報をプロジェクトメンバー内で参照することで、事前に問題点、注意点などの把握が可能となり、手戻りを少なくすることができます
- ・プロジェクト（PJ）関係者全員が、全体の進捗を俯瞰的に見ることができるので、スケジュール遅延の箇所、要因を早期に発見することができます
- ・図面、仕様書等を設計BOMと対応させてプロジェクトの状況と共に確認できるため、ドキュメントの不足、内容の不備などを防止できます



設計部門 生産技術部門 製造部門

情報収集の時間短縮/ミスの撲滅

- ・品目と関連する図面/ドキュメントの関係を構成リレーションで管理しているので、通常の検索とは異なる「関連」や、「影響」を使い必要な情報を探せます。共通で使用する部品、図面、仕様書の設計変更などに必須です
- ・リビジョン毎に構成リレーションを管理するので、必要なタイミングの製品、部品、図面などを明確に特定できます
- ・MRP/ERP等連携をすることにより品目の原価、リードタイム、在庫、歩留まりなどの情報を集約管理することにより、開発段階での品目選定を有益に行えます
- ・品目に対するスペック（抵抗値、静電容量、サイズなど）を管理できるので、流用・代替などの設計が効率的に行えます
- ・新規設計（構想）から設計変更までの履歴を管理していることで、設計理由、変更理由などを追跡することができます



構成リレーションを辿って親子孫の関係を簡単に展開表示

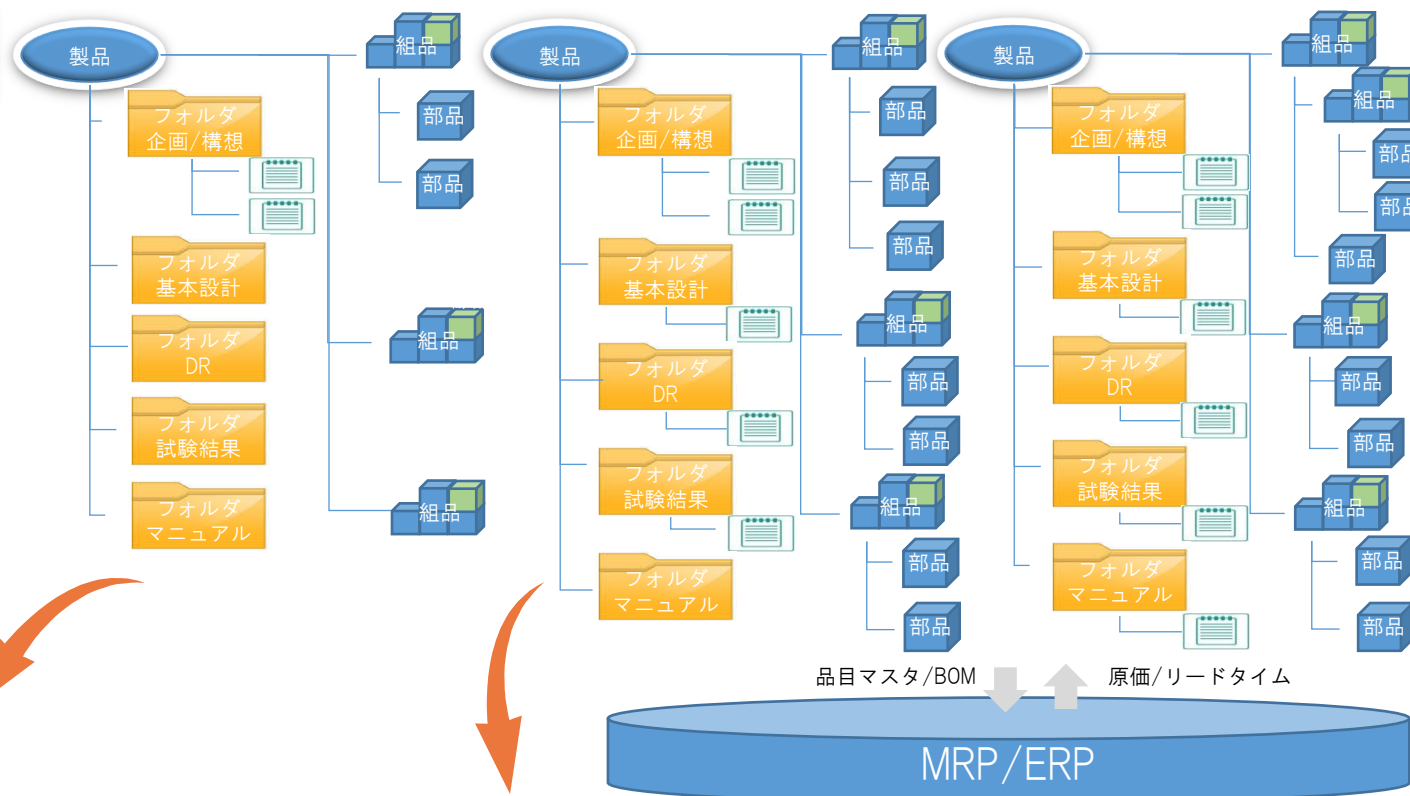
一品多葉図面
多品一葉図面の関係も管理

品目や図面のリビジョンだけでなく構成リレーションの状態も管理

企画～構想設計

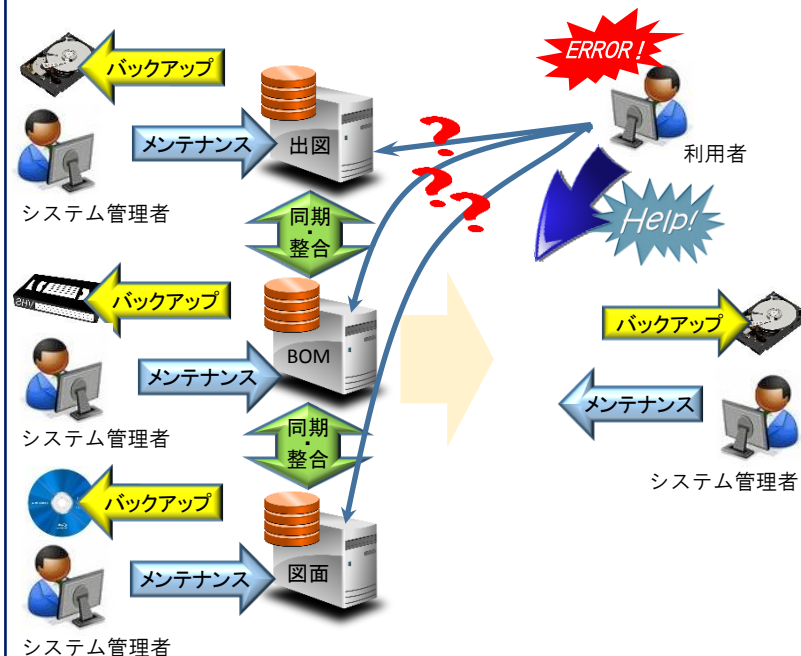
基本/試作設計

量産設計



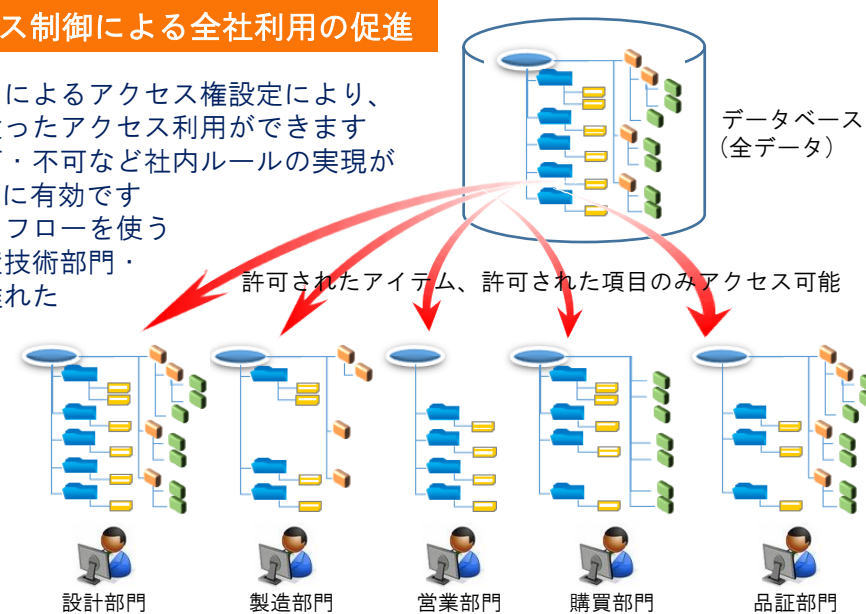
システムメンテナンスによる負荷を低減

- ・設計情報を1つのシステムにまとめて管理することにより、システム管理者の保守の手間を低減する事ができます
- ・システムトラブルなどが発生した際に、PLMシステムへの問合せをすることで原因追求、対策が行え、短時間で解決することができます



ワークフロー / アクセス制御による全社利用の促進

- ・データ種類やステータスによるアクセス権設定により、セキュリティルールに従ったアクセス利用ができます
※参照可・不可、更新可・不可など社内ルールの実現がISMS（ISO27001）対策に有効です
- ・設計情報の承認をワークフローを使うことで、開発部門・生産技術部門・品証部門など、たとえ離れた事業所にある部署間であっても、短時間でレビューチェック、承認作業ができます



実績収集による開発工数の見直し

- ・予定原価と実績原価、承認（出図）予定日と承認（出図）実績日等の予実情報を元に分析することで、開発作業標準工程、標準原価などの見直しが行えます
- ・類似の新規受注に対しての見積もり、スケジュールを作成する際に根拠とすることができるため、紙中心の運用から、データを中心とした運用に切り替えていくことができます

製品から展開することで部分毎の予定、状況が一目瞭然

MRP/ERP



予定原価	実績原価	承認予定日	承認実績日
100000	101000	2015/11/2	2015/11/3
90000	91000	2015/11/1	2015/11/1
78000	77000	2015/12/2	2015/12/2
800		2016/1/20	
50		2016/1/10	
120		2016/1/10	
80		2016/1/15	
200		2016/1/15	
1000	1200	2015/10/1	2015/10/1
500	500	2015/11/4	2015/11/5
300	300	2015/11/6	2015/11/6
100	100	2015/11/8	2015/11/9
200	200	2015/11/9	2015/11/9
50	50	2015/1/30	2015/1/30
1200	1200	2015/12/1	2015/12/1
500		2016/1/10	
500	500	2015/7/20	2015/7/20
200	200	2015/7/21	2015/7/21
50	50	2015/1/20	2015/1/21
100	100	2015/1/20	2015/1/22
10	10	2015/1/20	2015/1/22
20	20	2015/1/20	2015/1/20
5	5	2015/1/30	2015/1/30
1030		2016/1/30	
300		2016/1/20	
130		2016/1/20	
70		2016/1/10	

ERPから実績原価を取り込み

各種予定と実績データを管理するので、差分が明確

● 機能一覧 (各設計フェーズで使用する機能)

企 画	構想設計	基本設計	試作設計	量産設計	設計変更
<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト起案 ・製品要求仕様策定 ・販売計画策定 ・WBS作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画図作成 ・UNIT検討 ・予定原価策定 ・構想設計DR 	<ul style="list-style-type: none"> ・UNIT図面作成 ・原価検討 ・バリエーション／オプション決定 ・基本設計DR 	<ul style="list-style-type: none"> ・品番/試作品番採番 ・試作BOM作成 ・部品図作成 ・試作設計DR ・内・外作検討 ・S/W開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・正式品番採番 ・図面改訂 ・バリエーション／オプション設計 ・量産設計DR ・製造場所決定 ・出図 	<ul style="list-style-type: none"> ・設計変更依頼 ・調査 ・図面・BOM変更 ・設計変更通知 ・設計変更DR ・出図

製品設計BOM

- ・マスタ管理 (品目、図面など)
- ・設計BOM(E-BOM)管理
- ・マルチファイル管理
- ・簡易検索機能
- ・作業領域管理
- ・履歴(版)管理
- ・ワークフロー機能
- ・ブックマーク機能
- ・原価管理

- ・マスタ管理 (品目、図面など)
- ・設計BOM(E-BOM)管理
- ・構成一括変更
- ・マルチファイル管理
- ・簡易検索機能
- ・作業領域管理
- ・変更点抽出機能
- ・履歴(版)管理
- ・ワークフロー機能
- ・ブックマーク機能
- ・マトリクス部品表
- ・原価管理
- ・BOM比較表
- ・設計変更管理

- ・マスタ管理 (品目、図面など)
- ・設計BOM (E-BOM)管理
- ・構成一括変更
- ・マルチファイル管理
- ・簡易検索機能
- ・作業領域管理
- ・変更点抽出機能
- ・履歴(版)管理
- ・ワークフロー機能
- ・ブックマーク機能
- ・マトリクス部品表
- ・原価管理

- ・マスタ管理 (品目、図面など)
- ・設計BOM (E-BOM)管理
- ・構成一括変更
- ・マルチファイル管理
- ・簡易検索機能
- ・作業領域管理
- ・変更点抽出機能
- ・履歴(版)管理
- ・ワークフロー機能
- ・ブックマーク機能
- ・マトリクス部品表
- ・原価管理
- ・BOM比較表
- ・設計変更管理

受注設計BOM

- ・マスタ管理(案件、製番など)
- ・設計BOM(E-BOM)管理
- ・流用コピー機能

- ・マスタ管理 (案件、製番など)
- ・設計BOM (E-BOM) 管理
- ・流用コピー機能

- ・マスタ管理 (案件、製番など)
- ・設計BOM (E-BOM)管理
- ・流用コピー機能

製造準備BOM

- ・製造BOM (M-BOM)管理
- ・E-BOMからM-BOMへの移行
- ・作業工程管理

- ・製造BOM (M-BOM)管理
- ・E-BOMから M-BOMへの移行
- ・作業工程管理

- ・製造BOM (M-BOM)管理
- ・E-BOMから M-BOMへの移行
- ・作業工程管理

保守BOM

- ・保守部品 (S-BOM)管理
- ・部品交換履歴管理

- ・保守部品 (S-BOM)管理
- ・部品交換履歴管理

● 稼動環境

サーバはデータ量、同時実行ユーザ数により
オールインワンの1台構成、またはそれ以上の複数台
構成をとる事ができます。

※記載の会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

対象マシン	稼働OS	推奨メモリ	必要ソフトウェア
DBサーバ	UNIX/LINUX/Windows	4GB以上	Oracle
WEB/APサーバ	Windows	4GB以上	Jetty又はWeblogic
STORAGEサーバ	Windows	4GB以上	JRE
クライアントPC	Windows	2GB以上	Internet Explorer JRE

株式会社 コア

〒154-8552 東京都世田谷区三軒茶屋1-22-3 コアビル
プロダクトソリューションカンパニー 営業統括部
TEL 03-3795-5153
E-mail openpdm@core.co.jp
製品URL <http://www.core.co.jp/openpdm/>

お問合せ先

※本製品の仕様は改良のため予告なく変更する場合があります。